


GEカレッジホール 開設1周年記念講演会

日時：平成13年6月22日(金)
場所：GEカレッジホール

共催：  地球環境カレッジ株式会社

当社が駒沢に本社を移転し、GEカレッジホールが開設されてから1年が経過した6月22日(金)、公開記念講演会を開催しました。
当日は環境問題との関連でホット 이슈となっているエネルギーとITについて、経験豊かなお二人の講師をお迎えし、大変興味深いご講演をうかがうことができました。
当日は社外の方を含めまして多くの方々に参加され、講演会と、それに引き続き懇親会も盛会の内にとりおこなわれました。
当日の講師の先生お二人の講演の内容は早急に講演録として取りまとめますので、講演の骨子のみを当社の責任において取りまとめ、紹介させていただきます。
今後とも社会に開かれたGEカレッジを目指しますので、より一層のご支援をお願いいたします。

〔演題1〕 エネルギーと環境 日本原子力発電株式会社 相談役 飯田孝三先生

『電力と環境とは切っても切れない関係です。そこで、エネルギーと環境のバランスをいかにとるかという使命が関係者に生じるのです。今日のテーマも過去、電力が環境問題に如何に関係してきたかということ、私の経験を通して申し上げます』

我が国の電力事情

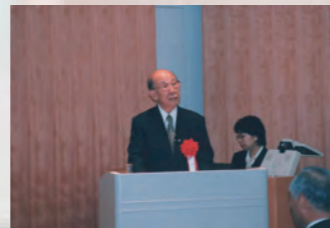
- * 昭和30年代頃まで水力発電が主 → 火力発電の増加 → 環境の悪化(SO_xやNO_xの排出)
小学生が運動場で倒れる等の被害が発生
火力発電の抑制 → 予備電力の減少 → 電力供給は綱渡り

原子力発電の特性

- * 昭和45年 敦賀発電所(日本原子力発電)、美浜発電所(関西電力)からスタート
- * 原子力発電はCO₂が発生しない = 地球温暖化防止に役立つ最高の環境対策
- * 「新エネルギー」(太陽光、風力) = 欲しい時間に、欲しい時期に発電できないという制約

気候変動問題

- * 最近50年の急速な気温の上昇
産業革命当時:280ppm → 第二次大戦:310ppm → 現在:350ppm
(0.2ppm/年) (1.0ppm/年)
- * 大部分が人口増加に起因 とくにアジアと中東での増加の傾向



COP3からCOP6へ

- * 1997年 COP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議、京都会議)
先進国に対して、2010年のCO₂の平均排出量を1990年レベルよりも少なくとも5%は減らす
- * 2000年11月 COP6 排出権取引等、京都メカニズム議定書の運用ルール作りを決定しようとしたが、決裂
→ 2001年7月のCOP6再開会合に持ち越し
- * 各国の事情 日本-1990年頃には省エネルギー技術を強力に推し進めていたので、これ以上の削減は難しい
アメリカ-ブッシュ政府はCOP3よりの離脱を表明、独自案へ
エネルギー事情が大変厳しく、2020年には1999年の1.4倍になるとの予測
- * 発展途上国と先進国との対立をにらみながら、地球全体の環境悪化をいかにして解決するか

世界の電力事情と原子力利用

- * アジア地区のエネルギー消費の急増(全世界の伸びの70%が集中)
- * 米国-国家エネルギー政策(ブッシュ大統領); 原子力推進も視野に

まとめ

- * 原子力の平和利用の推進が必要
- * そのためには情報公開 etc...
- * 環境とエネルギーの問題も新たな時代に...

〔演題2〕 ITと環境の融合

東京大学名誉教授
慶應義塾大学政策・メディア研究科教授
村井俊治先生

『ITと環境を融合して、新しい文化を創生しよう、というのが私の提案です』

ITと環境は、21世紀の2大キーワードである。

- * IT = 情報基盤、ネットワーク、格差解消、情報利用
- * 環境 = 価値観、共生、モニタリング、評価モデル
- * 「ITと環境を融合して、文化遺産(国民の財産)の創生」を提案したい

時代の変化とともに社会の要請も変わることに留意

IT分野における技術の変化

- * アナログからデジタルへという大変換
- * 放送(片方向)から通信(双方向)へ;コミュニケーションの理念に合致

価値観の変化

- * 経済重視から人間重視へ
- * 国土建設から国土マネージメントへ

国土づくりの目標

- * 透明性と住民参加
- * 美しい安全な国土:文化、歴史、伝統

ジオインフォマティクス(Geoinformatics)の提案

- * Geoinformaticsとは次のような学問領域
目的 : 国土空間の計画、開発、管理の意志決定の支援
内容 : 国土空間データの収集、処理、格納、分析及び表示
- * Geoinformaticsを支える技術
3S technology(リモートセンシング RS、地理情報システム GIS、汎地球測位システム GPS)

IT技術がライフスタイルに与える影響

- * 情報格差と情報依存
- * 情報洪水と新たな検索力
- * 声と文字によるコミュニケーションの必要性

